

中山間地域の農業を支える仕組みの構築について

現状

- ◆ 中山間地域の農業については、「日本型直接支払制度」の活用により農地の維持管理等を支援することで生産基盤を下支え。
 - ◆ その上で、地域の核となる集落営農組織と中山間農業複合経営拠点が両輪となり、営農活動を行う取り組みを推進。
 - ◆ また、令和元年度からは、「地域農業戦略」の策定を検討し、機械の共同利用など組織間連携によりカバーする仕組みづくりを推進。
- | | |
|----------------|---------------------------|
| ○ 集落営農組織数 | H27 : 204 → R元.10.末 : 225 |
| ○ 集落営農法人数 | H27 : 16 → R元.10.末 : 29 |
| ○ 中山間農業複合経営拠点数 | H27 : 4 → R元.10.末 : 21 |
| ○ 地域農業戦略の検討数 | R元.10.末 : 5 地区で検討 |

課題

- 課題1 集落営農組織等の県内への更なる拡大**
集落営農組織等の整備は、これまで土地利用型農業を中心とした地域で進んできたが、農業者の減少・高齢化が進む中、今後は取り組みが遅れていた施設園芸地帯などでの整備が必要。
- 課題2 集落営農組織等の経営力の強化**
集落営農組織等が持続可能な営農活動を行っていくためには、経営力の強化などにより、新たな担い手の確保を図ることなどが必要。
- 課題3 組織間連携の取り組みの県内への拡大**
地域農業を支える活動を継続していくためには、組織間連携の推進により、省力化・効率化につながる機械の導入や労働力の確保等を図るとともに、広域で活動できる地域の中核を担う組織の育成が必要。

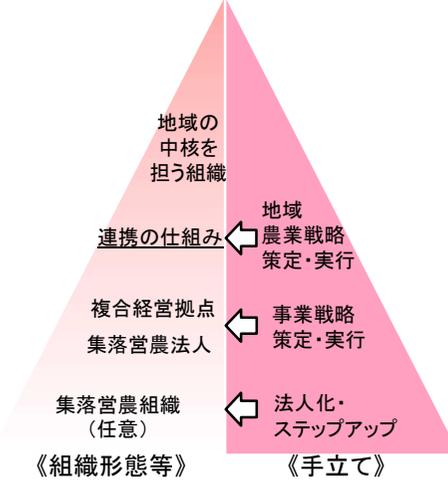
現状と今後の目指すべき姿

【目指すべき姿1】集落営農組織等の裾野の拡大！



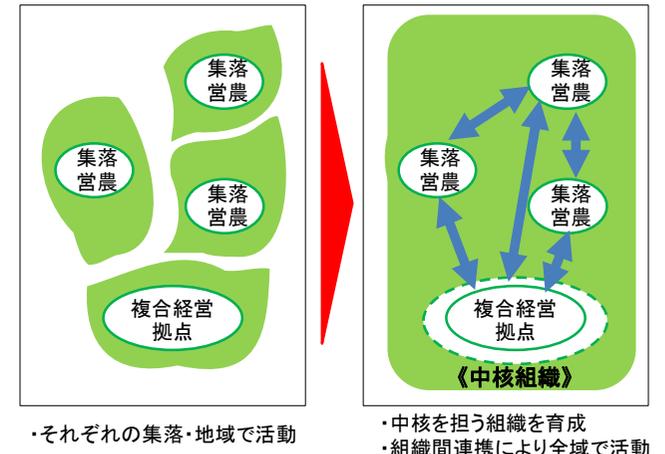
【戦略目標】集落営農組織等の新規設立数（累計）
H30 : -- → R5 : 40組織 → R11 : 100組織

【目指すべき姿2】経営力のレベルアップ！



【戦略目標】集落営農組織等の法人数
H30 : 45 → R5 : 69 → R11 : 93

【目指すべき姿3】組織間で支える仕組みづくり！ 《複合経営拠点を中核とした連携の例》



・それぞれの集落・地域で活動
・中核を担う組織を育成
・組織間連携により全域で活動

【戦略目標】地域農業戦略の策定数
H30 : - → R5 : 17 → R11 : 35

目指すべき姿に向けた施策の展開方向

集落営農組織等の整備推進

- 集落営農組織及び中山間農業複合経営拠点の組織化や活動開始に向けた農業用機械等の整備を図る際に、ソフト及びハードの両面から支援。
 - ・集落営農塾及び地域営農アドバイザーによる個別支援
 - ・先進事例研修などへの支援
 - ・補助事業による農業用機械・施設の整備 など

集落営農組織等の法人化の推進と経営発展への支援

- 集落営農組織の法人化及び集落営農法人や中山間農業複合経営拠点の経営改善を促すため、事業戦略の策定・実行を図る際に、ソフト及びハードの面から支援。
 - ・アグリ事業戦略サポートセンターによる個別支援
 - ・高収益作物の導入などへの支援
 - ・事業戦略に基づく農業用機械等の整備支援 など

拡 組織間連携の推進と地域の中核組織の育成

- 地域農業戦略を策定し、地域の中核組織が省力化・効率化につながる機械等の導入や労働力の確保等を図る際に、ソフト及びハードの両面から支援。
 - ・地域農業戦略の策定・実行の支援
 - ・地域営農塾による省力化等の研修の実施
- 新 地域農業戦略に基づく農業用機械等の整備支援 など